

主の働きを証言する働き

(ヨハネ5・31〜40)

一、バプテスマのヨハネの証言

ベツレヘムで生まれナザレで育ったユダヤ人イエスが、神が遣わされた救い主であり神御自身であると、どうやって知るのでしょうか。イエスご自身は、「こうおっしゃいました。31節です。

「へもわたし自身について証しをするのがわたしだけなら、わたしの証言は真実ではありません。」と。自分が語る証言は、イスラエルにおいては受け入れられませんでした。当然と言えば当然です。続けて語られました。32節です。「わたしについては、ほかに証しをする方がおられます。そして、その方がわたしについて証しする証言が真実であることを、わたしは知っています。」と。その方、すなわち神御自身が証言しているとおっしゃいました。ところで、主イエスが公生涯としての活動を始められた当初、バプテスマのヨハネが主イエスについて証言したと、福音書に記されています。そのことが5章33節で語られています。「あなたがたはヨハネのところに人を遣わしました。そして彼は真理について証ししました。」と。ですが主イエスは、「バプテスマのヨハネの証言があるから、わた

しの活動には正当性がある」とは語られませんでした。ユダヤ人がバプテスマのヨハネを認めていたので「あなたがたのために語った」というのです。そのことが34節で語られています。「わたしは人からの証しを受けませんが、あなたがたが救われるために、これらのことを言うのです。」と。これらのこととは、バプテスマのヨハネの証言です。

二、神御自身の証言

主イエスが依って立っているのは、神の証言です。イエスが「父」と呼んでおられるお方です。36節です。「しかし、わたしにはヨハネの証しよりもすぐれた証しがあります。わたしが成し遂げるようにと父が与えてくださったわざが、すなわち、わたしが行っているわざそのものが、わたしについて、父がわたしを遣わされたことを証しているのです。」と、おっしゃいました。イエスは、神が遣わされ、人として生まれられたお方です。ということは、私たちと全く同じように、赤ちゃんの時代があったわけであり、少年時代があったわけです。反抗期があったのかどうかは分かりませんが、ルカの福音書には、こう書かれています。「ルカ2・40幼子は成長し、知恵に満ちてたくましくなり、神の恵みがある上にあつた。」と。その先の41節以降には、12歳の時のこと、すなわちユダヤ教徒においては「律法の

子」として成人した時のことが書かれています。こうして、およそ30歳にして、それまで温めてきた使命を実行に移されたわけですね。主イエスが公生涯に入ると、イエスを遣わされたお方が神であるという「証し」がなされました。そのことがヨハネの福音書において、「しるし」と書かれています。

続いて、主イエスがおっしゃったもう一つの証言があります。37節前半をご覧ください。「また、わたしを遣わされた父ご自身が、わたしについて証しをしてくださいます。」とおっしゃいました。何のことを語られたのでしょうか。聖書です。その場合の聖書とは今日の旧約聖書です。聖書は、イエス・キリストのことを語っています。そのように読むのが、神の子イエス・キリストが解き明かした読み方であり、教会の読み方です。39節に記されています。「あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思つて、聖書を調べています。その聖書は、わたしについて証しているものです。」と。旧約聖書を読んで、イエス・キリストの姿を見いだすこと。これが、教会の読み方です。例えば、イザヤ書53章です。「イザヤ53・4〜5」の「彼」は、イエス・キリストです。あるいは、ダニエル書7章です。「ダニエル7・13〜14」の「人の子のような方」を見て、教会は「再臨のイエスさまだ」と分かるわけです。

元の箇所に戻ります。40節です。「それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。」と、主はおっしゃいました。これが、イエス時代のユダヤ人、そして福音書が発行された当時のユダヤ人、及びすべての人に語られていることばです。

三、私たちへの適用として

キリストを信じ、聖書に人生の道しるべを求めるようになりますと、あることが分かってまいります。それは、自分が生まれたのは主に遣わされたことであつたと。親からするなり、この子が生まれたのは主によって遣わされたことであつたと。そのように受け止めるなら、人と出会うことも、神のご計画の中にある、受け止められるようになりまします。私共は人生において、決断を迫られる時があります。どのような学校を選ぶべきか、どのような仕事を選ぶべきか、新しく事業を興すべきか、だれと結婚するのが良いかなどなどです。箴言に「19・21人の心には多くの思いがある。しかし、主の計画こそが実現する。」とありますから、そう信じて歩まれることをお勧めします。「背後には神がおられる。神こそ、聖霊こそ、私を後押ししてくださるお方である」と知るなら、力強く、恐れることなく生きて行くことができます。